

第2章 本市の生涯学習の現状と課題

第1節 本市の生涯学習の取り組み状況

本市では、市民の多様な学習ニーズに対応するため、社会教育課と公民館・図書館・博物館などの生涯学習関連施設が連携し、生涯学習情報の発信や生涯学習機会の提供及び学習成果の活用などについて、様々な取り組みを実施しています。

1 社会教育課における事業

- ①市民交流促進総合ポータルサイト「さやマルシェ」内に、生涯学習情報やサークル等の活動情報を市民がいつでも検索できるシステムとして、狭山市生涯学習情報検索システム「さやまなびいネット」を開設するとともに、狭山市市民交流センター内には、生涯学習に関する情報提供と相談等に対応する窓口として生涯学習情報コーナーを開設するなどして、情報提供や相談体制の充実を図っています。
- ②入間川小学校においては、市民の文化の向上並びにスポーツ及びレクリエーション活動の増進に資することを目的に、学校施設の一部開放をしています。
- ③市民の学びのきっかけとなるよう、公民館・富士見集会所・体育館等で活動する生涯学習団体を一覧化した「さやま学びの仲間たち」の冊子を作成し、生涯学習関連施設や関連部署等に配置し閲覧できるようにしています。
- ④本市の施策や制度などの行政情報を積極的に提供する生涯学習まちづくり出前講座を実施しています。
- ⑤個人や地域が抱える課題が多様化・複雑化する中で、現代的課題や地域課題の解決に向けた事業の取り組みを実践しています。
- ⑥富士見集会所では、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を図るための事業を実施しています。
- ⑦人権問題や平和に対する意識の高揚を図るための講座や講演会を開催しています。
- ⑧子育てに必要な親の学習など、家庭教育の重要性を再認識するとともに、教育力の向上に資することを目的として、幼稚園や、各小・中学校で家庭教育学級を開催しています。
- ⑨地域の教育力を活かして、児童の健全育成を図るため、地域子ども教室や子ども会育成会連絡協議会の活動の支援を行っています。地域子ども教室は、小学校区によって、放課後に実施する放課後教室と学校の休業日に実施する体験教室があります。また、子ども会活動では、小学校高学年・中学生を対象にしたジュニアリーダー初級講習会を開催して宿泊研修や体験学習等を行うほか、県のイベントなどにも参加しています。
- ⑩文化財については、文化財に関する啓発を目的に講習会などを開催するとともに、獅子舞や祭囃子などの民俗芸能の保存・継承に取り組む団体への支援や埋蔵文化財の発掘と整理・保存を行なっています。
- ⑪小学校4年生から6年生を対象に、子供の知的好奇心を刺激する学びの機会として、

東京家政大学と連携して「子ども大学さやま・いるま」を、そして武蔵野学院大学と連携して「子ども大学さやま」を開校しています。

- ⑫生涯学習ボランティア制度をはじめ、さやま市民大学の同窓会を中心に狭山市学校支援ボランティアセンターを通じて支援を行う学校支援ボランティア、保護者・地域人材が学校活動への支援をボランティアで行う学校応援団など、多様なボランティア活動への支援を行っています。

■関連施設

施設名	施設内容
富士見集会所	第1集会室 第2集会室 学習室 会議室 和室
入間川小学校 開放施設	講堂 コミュニティルーム エントランスホール 図画工作室 家庭科室 多目的ホール 音楽室Ⅰ 音楽室Ⅱ

■社会教育課主催事業

	事業名		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
①	生涯学習情報コーナー	相談者数		961 人	1,868 人	2,323 人	2,100 人
		来場者数		4,947 人	9,646 人	12,024 人	13,974 人
②	入間川小学校開放施設	利用件数	749 件	789 件	806 件	800 件	690 件
		利用者数	24,434 人	19,152 人	18,297 人	16,538 人	16,620 人
③	さやま学びの仲間たち	掲載団体数	1,495 団体	1,456 団体	1,472 団体	1,467 団体	1,423 団体
④	生涯学習まちづくり出前講座	利用件数	474 件	496 件	468 件	489 件	403 件
⑤	現代的課題等講座事業	事業件数	39 件	37 件	38 件	17 件	12 件
		参加者数	2,650 人	2,320 人	1,787 人	610 人	422 人
⑥	富士見集会所人権教育事業	事業件数	12 件	13 件	13 件	13 件	13 件
		参加者数	1,345 人	1,280 人	1,372 人	1,390 人	1,398 人
⑦	人権意識高揚事業	事業件数	32 件	30 件	31 件	30 件	29 件
		参加者数	1,120 人	1,135 人	1,217 人	1,176 人	1,087 人
	平和意識高揚事業	事業件数	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件
		参加者数	58 人	42 人	69 人	54 人	300 人
⑧	家庭教育学級支援事業	学級数	34 学級	34 学級	34 学級	34 学級	30 学級
		参加者数	5,725 人	5,844 人	5,550 人	5,573 人	5,488 人
⑨	地域子ども教室推進事業	教室数	11 教室	13 教室	14 教室	14 教室	15 教室
		参加者数	6,650 人	7,496 人	8,560 人	10,133 人	11,892 人
⑩	民俗芸能などの保存継承件数	件数	16 件	16 件	15 件	15 件	15 件
	埋蔵文化財包蔵地の遺構確認調査*	調査件数	15 件	17 件	32 件	23 件	26 件
⑪	子ども大学事業	開催日数	5 日	5 日	10 日	10 日	10 日
		受講者数	40 人	34 人	83 人	53 人	59 人
⑫	狭山市学校支援ボランティアセンター事業	支援時間	8,360 時間	7,995 時間	9,180 時間	9,127 時間	8,984 時間
		派遣人数	261 人	300 人	337 人	337 人	313 人
	学校応援団	活動日数	—	7,153 日	7,415 日	7,606 日	8,434 日
		支援者数	55,935 人	47,253 人	46,710 人	50,742 人	51,562 人

※ ⑦平和意識高揚事業は平成27年度に「戦後70周年狭山市戦没者祈念平和式典」を実施した

※ ⑪平成23年度に「子ども大学さやま・いるま」が、平成25年度に「子ども大学さやま」が開校した

※ ⑫学校応援団は平成24年度から延べ活動日数を算出している

*埋蔵文化財包蔵地の遺構確認調査

埋蔵文化財(古墳・住居跡などの遺跡(遺構)や、石器・土器などの遺物)を包蔵する土地(埋蔵文化財包蔵地)として周知されている土地において、土木工事を行う場合、事前に遺構があるかどうかを確認する調査。

2 公民館における事業

- ①公民館では、よりよい地域社会をつくるため、地域の実情や課題に応じ、人権・環境・少子高齢化など、様々な現代的課題等の解決に向けた事業を実施しています。
- ②子供の体験活動や地域との交流、高齢者の生きがいを促進する講座など、子供から高齢者までだれもが主体的に学び、活動し、様々な交流を通じて生きがいを実感できるようライフステージ*に応じた公民館事業を実施しています。
- ③公民館利用者の学習活動の成果を発表する場として、また地域住民同士の交流の場として市民文化祭を開催しています。また、学習成果を活かした地域貢献活動を支援して、地域の活性化やまちづくりにつなげています。
- ④地区センターや学校等と連携して、それぞれの地域にある生涯学習関連施設や人材を活用しながら、地域の特色を活かしたイベントなどを実施しています。
- ⑤個々の学習者やサークル等、施設利用者に対して、資料や学習教材・学習情報の提供をはじめ、サークル運営上の問題解決や活動発展のための助言等、相談や活動支援を行っています。
- ⑥平成24年度から利用時間区分の変更を行い、また、平成27年度には「狭山市立公民館の利用に関する取扱い要綱」を制定して団体登録人数を見直す等、市民が利用しやすい場づくりを行っています。また、公民館全館でインターネット接続を可能とするなど、ICTに関する学習環境を整えています。
- ⑦富士見・水野・広瀬の3公民館では、平成22年度から指定管理者制度を導入しています。
- ⑧公民館などの建物や設備が老朽化する中で、公民館5館の耐震改修工事や空調改修工事、給排水衛生設備改修工事を計画的に進めました。中央公民館については、平成24年度に狭山市駅西口の市民交流センター内に移転し、また新狭山公民館と入曽公民館については、今後、更新が予定されています。

■公民館主催事業件数（件）

館名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
中央公民館	35	33	23	39	38
富士見公民館	58	62	31	38	40
入曽公民館	20	18	24	32	36
水野公民館	53	53	51	55	51
堀兼公民館	28	30	26	31	37
狭山台公民館	37	36	38	38	44
新狭山公民館	20	24	21	27	20
奥富公民館	21	18	17	32	33
柏原公民館	16	31	30	26	40
広瀬公民館	40	39	32	31	35
水富公民館	21	25	31	39	43
合計	349	369	324	388	417

■公民館延べ利用人数（人）

館名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
中央公民館	103,926	154,960	167,564	177,154	173,446
富士見公民館	56,369	96,524	63,653	82,032	82,912
入曽公民館	49,318	84,595	79,257	68,497	64,828
水野公民館	41,698	52,044	69,196	64,394	60,767
堀兼公民館	17,511	26,300	21,056	26,556	24,264
狭山台公民館	36,827	68,368	66,656	69,554	68,593
新狭山公民館	22,814	40,722	37,718	35,785	7,053
奥富公民館	12,400	22,557	22,545	14,386	31,427
柏原公民館	20,140	30,560	40,909	47,000	32,101
広瀬公民館	35,311	55,948	51,902	49,119	47,802
水富公民館	19,383	22,579	19,820	26,504	24,638
合計	415,697	655,157	640,276	660,981	617,831

※ 新狭山公民館は更新事業のため平成27年7月1日より休館している

■公民館施設の内容

館名	施設内容
中央公民館	第1学習室、第2学習室、第3学習室、第4学習室、第5学習室、第1和室、第2和室、第1ホール、第2ホール、調理実習室、工芸室、視聴覚室
富士見公民館	第1学習室、第2学習室、会議室、和室、ホール、調理実習室、音楽室、工芸室
入曽公民館	第1学習室、第2学習室、会議室、和室、ホール、調理実習室
水野公民館	第1学習室、第2学習室、第3学習室、会議室、和室、ホール、調理実習室、音楽室、工芸室
堀兼公民館	学習室、会議室、和室、ホール、調理実習室
狭山台公民館	学習室、第1会議室、第2会議室、和室、ホール、調理実習室
新狭山公民館	学習室1、学習室2、学習室3、和室、ホール、交流ホール、調理実習室（平成29年6月開館予定）
奥富公民館	学習室、会議室、和室、ホール、調理実習室、多目的室
柏原公民館	学習室、和室、ホール、調理実習室、工芸室
広瀬公民館	学習室、会議室1、会議室2、ホール、和室、調理実習室
水富公民館	第1学習室、第2学習室、会議室、和室、ホール、調理実習室

※ 富士見・水野・広瀬の3公民館では平成22年度から指定管理者制度を導入

*ライフステージ

乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期など、人の一生を様々な段階で区分したもの。

3 図書館における事業

- ①図書資料の貸出しやレファレンスサービスをとおして、様々な学習活動を支援しています。また、地域の歴史や文化に関する郷土資料について、積極的な収集に努めています。
- ②視聴覚サービスとして、CDやDVDなどの貸出や子ども映画会を開催しています。
- ③平成25年度に「狭山市子ども読書活動推進計画」を策定し、学校などと連携して読書活動の推進をしています。また、児童・生徒向け広報紙の発行や、小・中学校へ出向いての図書館利用教育やブックトーク*を行うほか、読み聞かせ講座やおはなし会などを実施しています。
- ④市民文芸「さやま」を年1回発行し、市民の文芸創作活動の促進を図っています。
- ⑤図書館まで来館することが困難な方のために移動図書館車「さみどり号」を運行し、市内8コース、34か所を巡回しています。
- ⑥平成26年度には、中央図書館の耐震改修工事を行い、施設の整備・充実を図りました。
- ⑦狭山台図書館では、平成28年度から地域スポーツ施設と一体で指定管理者制度を導入しています。

■図書館利用者数（人）

館名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
中央図書館	201,400	214,413	209,976	129,927	206,899
狭山台図書館	70,865	67,498	67,351	91,378	67,331
移動図書館	6,902	6,589	6,869	7,048	6,706
合計	279,167	288,500	284,196	228,353	280,936

※ 平成26年度の中央図書館は、耐震改修工事のため6カ月間休館した

■図書館貸出点数（点）

館名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
中央図書館	702,141	697,956	666,152	376,832	646,501
狭山台図書館	259,363	246,574	243,834	361,702	248,708
移動図書館	23,526	22,914	22,768	24,041	22,412
合計	985,030	967,444	932,754	762,575	917,621

※ 平成26年度の中央図書館は、耐震改修工事のため6カ月間休館した

*ブックトーク

あるテーマに沿って複数の本の内容を紹介し、聞き手にその本を読みたい気持ちを起こさせること。多くは学校や図書館などで、児童・生徒を対象に行われる。

■図書館 蔵書数（冊）、視聴覚資料数（点）

平成 27 年度末現在

館名	図書 (一般用)	図書 (児童用)	紙芝居	雑誌	視聴覚資料	合計
中央図書館	321,251	165,027	3,046	6,908	12,181	508,413
狭山台図書館	102,048	50,848	1,165	3,030	0	157,091
合計	423,299	215,875	4,211	9,938	12,181	665,504

■施設内容

館名	施設内容
中央図書館	2階 児童開架室 3階 一般開架室 対面朗読室 4階 郷土参考資料室 ブラウジングコーナー 視聴覚室 会議室 くつろぎ読書室オアシス
狭山台図書館	1階 開架室 2階 視聴覚室 おはなしのへや 対面朗読室

*ブラウジングコーナー

閲覧室としての機能よりも、むしろ息抜きの作用や図書館でのリラクゼーションを念頭に設置されている。

4 博物館における事業

- ①常設展では、「入間川と入間路ーその自然と風土ー」を基本テーマとして、原始から現代にいたるまで、狭山で育まれた生活や文化、さらに、それを築いた人々の足跡にスポットをあてた郷土色豊かな展示を行なっています。
- ②企画展では、子供から大人までを対象に、「狭山らしさ」を活かしながら工夫を凝らした展示を行っています。また、展示をより深く理解するために、テーマに即した内容で講演会やワークショップ*を行っています。
- ③古文書や歴史などの各種講座や体験学習などを開催しています。
- ④年に数回、館内に茶席を設け、茶文化の理解を広めるとともに、狭山市の特産品である「狭山茶」の普及を図っています。
- ⑤平成27年度から、民間事業者のノウハウを活用してサービスの向上を図るため、指定管理者制度を導入しました。

■博物館入館者数（人）

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
一般	18,148	19,319	33,104	18,475	16,801
高校生・大学生	514	431	668	525	315
小学生・中学生	6,394	6,576	9,797	7,386	5,120
幼児	3,010	2,404	8,322	5,583	4,863
合 計	28,066	28,730	51,891	31,969	27,099

※ 平成25年度は、出張美術館を2日間開催した

■博物館資料数（点）

平成27年度末現在

民 俗	歴 史	写 真	地 学	動 物	美 術
4,519	4,554	332	680	262	302
植 物	図 書	考 古	その他	合 計	
69	394	205	368	11,685	

■施設内容

館 名	施設内容
狭山市立博物館	1階 舞い舞いホール 研修・講義室 2階 常設展示室 ロビー 絵画ケース 企画展示室 茶室

第2節 アンケート調査結果にみる生涯学習の現状

1 アンケート調査の概要

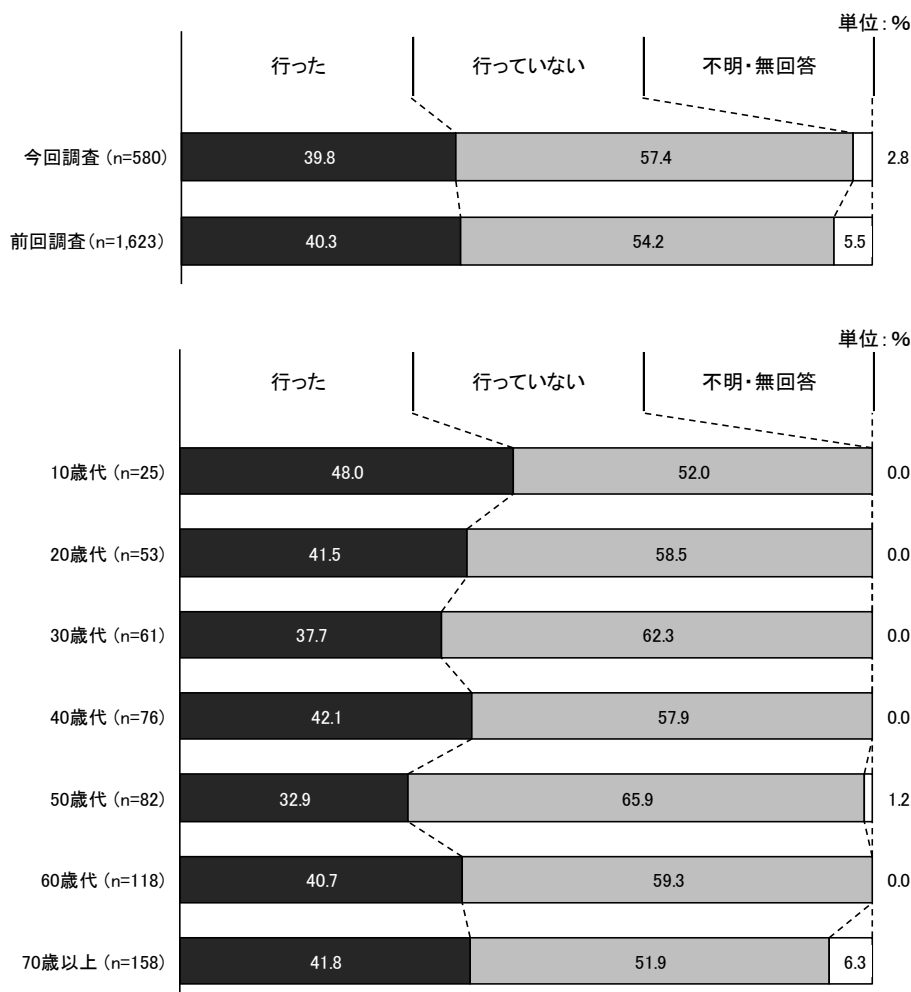
平成27年3月から4月にかけて、本市の生涯学習の現状を把握するためのアンケート調査を実施し、580名の市民から回答を得ました。アンケート調査の主な結果は、次のとおりです。

対象	16歳以上の市民 1,882人（住民基本台帳からの無作為抽出）	
調査方法	郵送配布・郵送回収	
調査時期	平成27年3月19日～4月10日	
	配布数	回収率
	1,882人	30.8%
	回答数	
	580人	

2 アンケート調査の主な結果

①この1年間に生涯学習を行ったか

この1年間に生涯学習を行ったかについては、「行った」が全体の39.8%にとどまっており、特に50歳代の割合が32.9%と最も低くなっています。

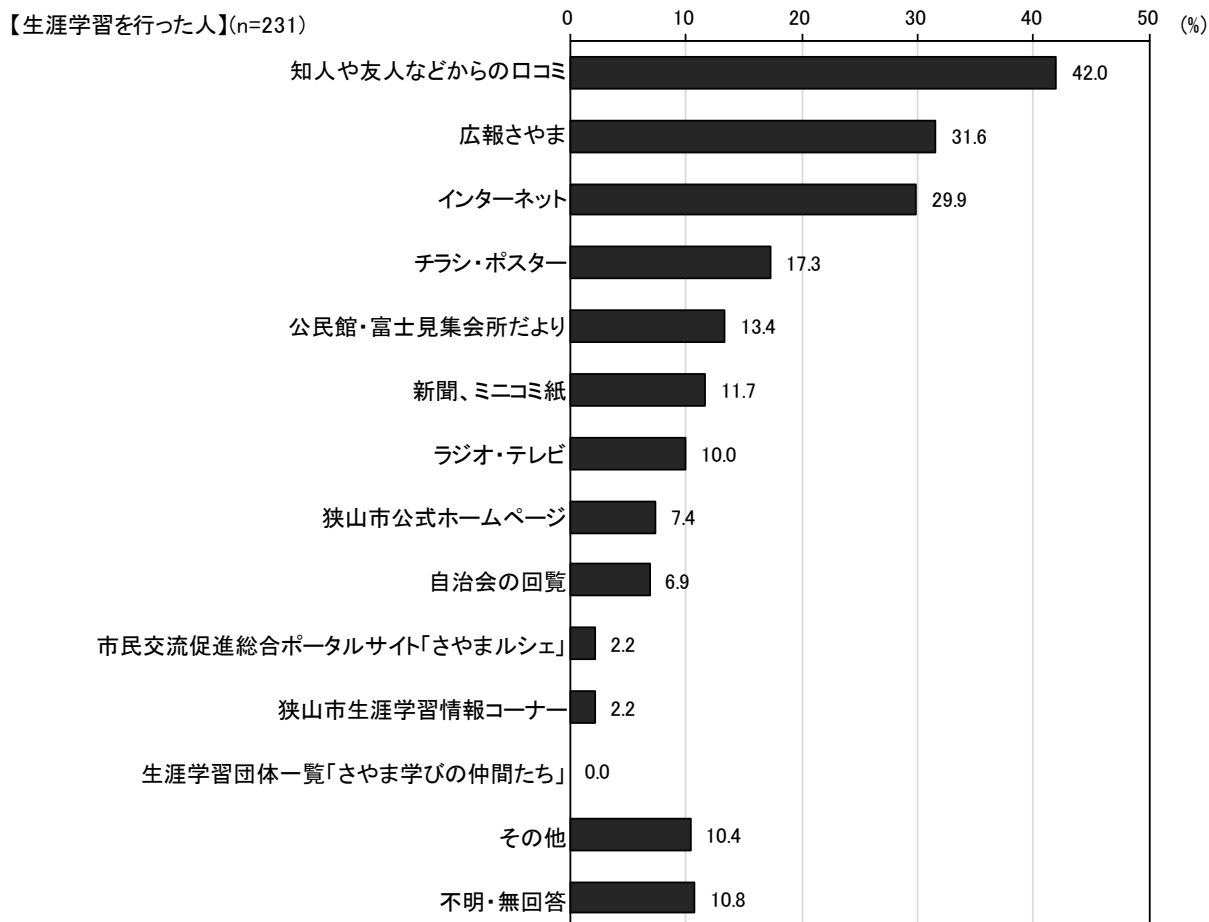


※前回調査は平成21年「狭山市民意識調査」

注：属性不明があるため年齢別の合計は一般市民の数に一致しない

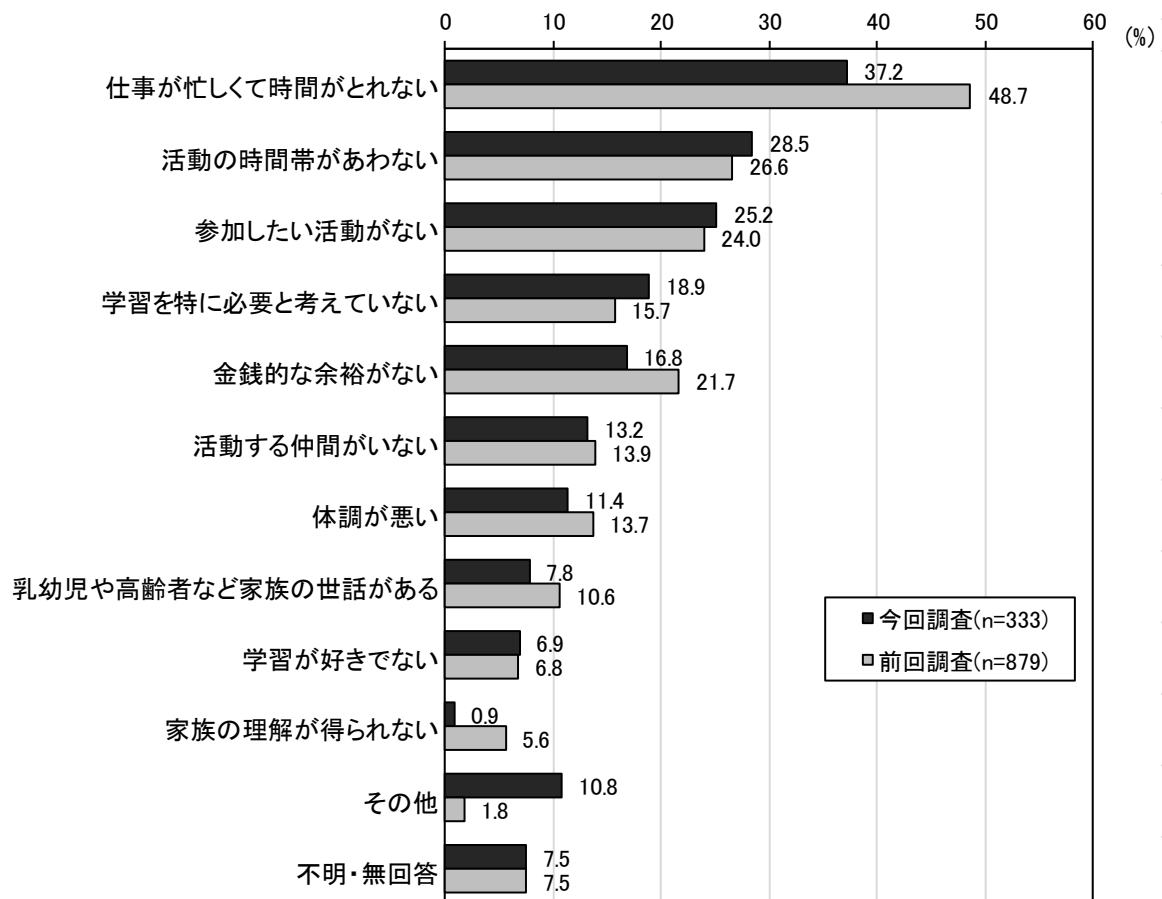
②生涯学習情報の入手方法

生涯学習情報の入手方法については、「知人や友人からの口コミ」が42.0%と割合が最も高く、市民交流促進総合ポータルサイト「さやマルシェ」及び「狭山市生涯学習情報コーナー」はそれぞれ2.2%と低くなっています。生涯学習団体一覧「さやま学びの仲間たち」の利用については回答がありませんでした。



③生涯学習をしていない理由

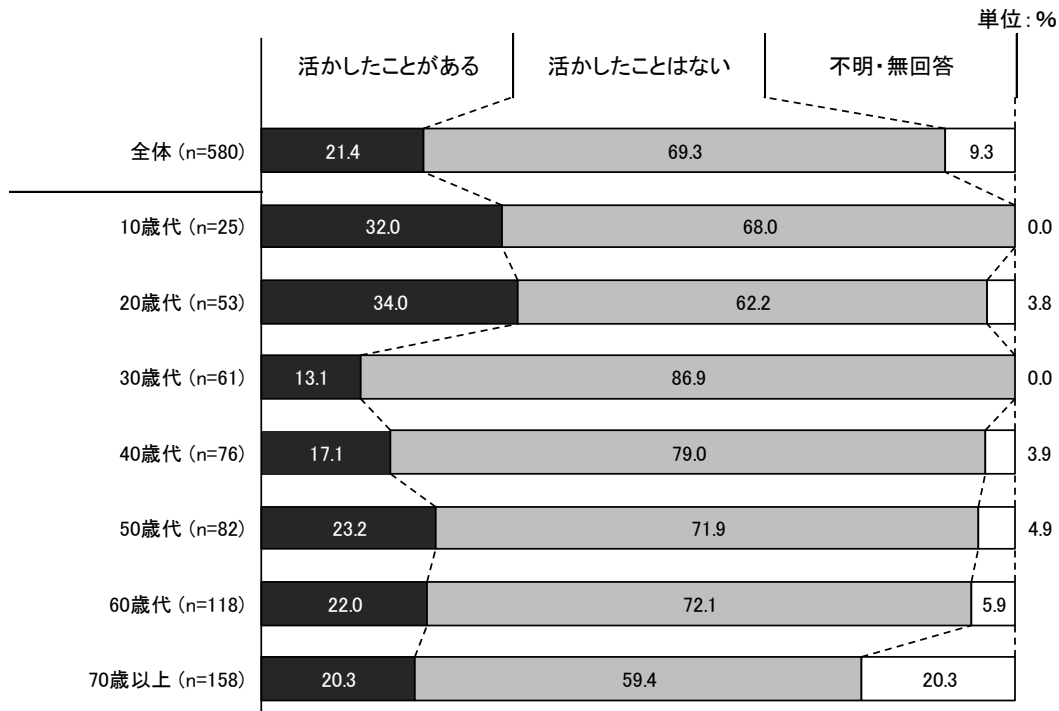
生涯学習をしていない理由については、「仕事が忙しくて時間がとれない」が37.2%と割合が最も高く、次いで「活動の時間帯があわない」「参加したい活動がない」「学習を特に必要と考えていない」の順になっています。



※前回調査は平成21年「狭山市民意識調査」

④生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を、自分以外のために活かしたことがあるか

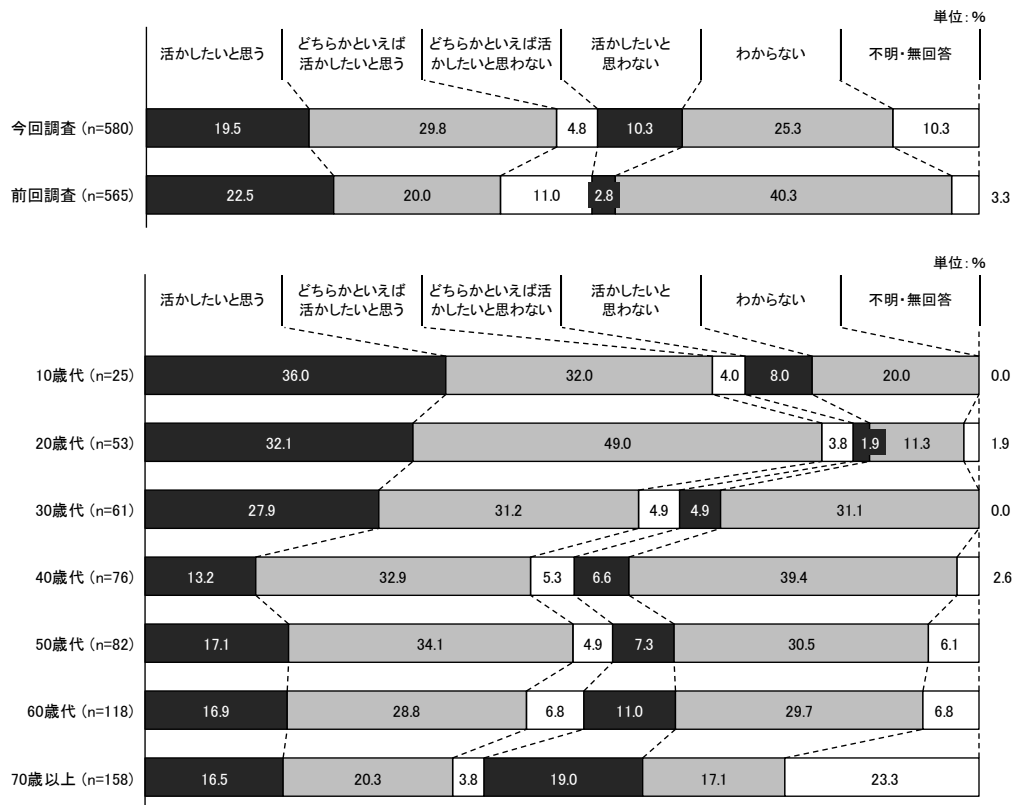
生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を自分以外のために「活かしたことがある」については21.4%にとどまっています。そのうち10歳代と20歳代の若い世代の割合が高くなっています。



注：属性不明があるため年齢別の合計は一致しない

⑤生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を、今後、自分以外のために活かしたいと思うか

生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を、自分以外のために活かしたいと思うかについては「活かしたいと思う」と「どちらかといえば活かしたいと思う」を合わせて49.3%となっています。そのうち10歳代と20歳代の割合が高くなっています。

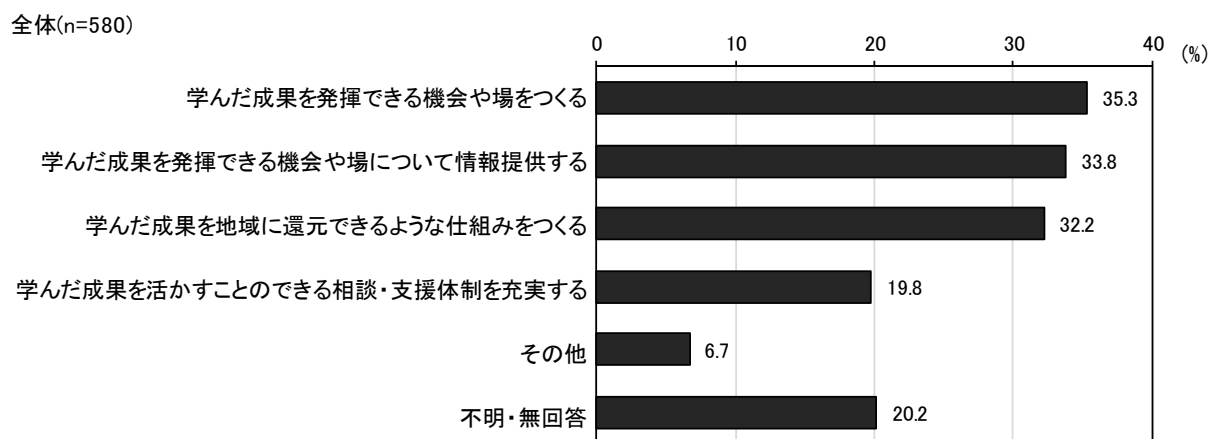


※前回調査は平成26年「教育振興基本計画策定にかかるアンケート調査」

注：属性不明があるため年齢別の合計は一致しない

⑥生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を活かすために必要なこと

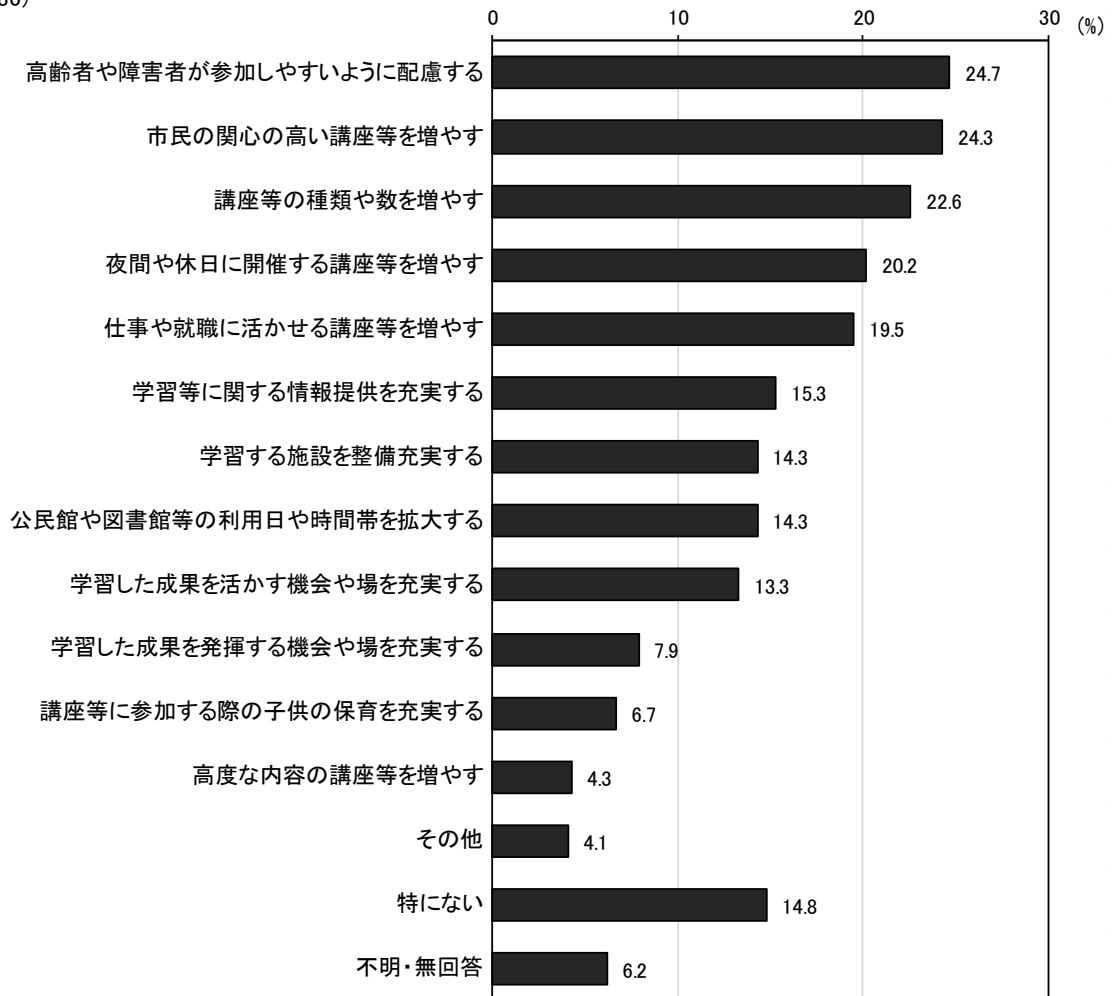
生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を自分以外のために活かすために必要なことについては、「学んだ成果を発揮できる機会や場をつくる」の割合が35.3%で最も高く、次いで「学んだ成果を発揮できる機会や場について情報提供する」が33.8%、「学んだ成果を地域に還元できるような仕組みをつくる」が32.2%となっています。



⑦生涯学習を充実するために、狭山市の行政に特に力を入れてほしいこと

生涯学習の充実に向けて狭山市の行政に特に力を入れてほしいことについては、「高齢者や障害者が参加しやすいように配慮する」が24.7%と最も高く、次いで「市民の関心の高い講座等を増やす」が24.3%、「講座等の種類や数を増やす」が22.6%となっています。

全体(n=580)



第3節 団体ヒアリング結果にみる生涯学習の現状

1 団体ヒアリングの概要

本市で生涯学習に関わる団体から、日頃の活動を通じての課題や、新たな生涯学習基本計画策定に向けての意見や提言を聴取するため、団体ヒアリング調査を実施しました。ヒアリング対象団体と、ヒアリング結果の概要は次のとおりです。

■団体ヒアリング実施概要

調査時期	平成 27 年 11 月 27 日
実施場所	狭山市役所内
実施対象	狭山市地域子ども教室連絡会 T i e 狭山市文化団体連合会 狭山市学校支援ボランティアセンター（SSVC） さやま市民大学同窓会 狭山市子ども会育成会連絡協議会 NPO 法人さやま生涯学習をすすめる市民の会

2 主な意見・提言

<団体活動の現状における問題点・課題>

- ・連携や情報の共有など横のつながりを強化していきたいが、そのための負担が多く、十分に出来ていない。
- ・活動が役員だけに偏り、役員のなり手がいない。また役員任期が終われば良いという考えが多く、継続的な活動につながらない。
- ・会員が高齢化し、若い世代の参加が少ない。
- ・広報活動が難しい。
- ・運営費用、会費予算が充足していない。
- ・会員同士のコミュニケーションが必要である。

<活動成果の還元について>

- ・自主事業や共催事業、近隣市との合同発表会の開催を行っている。
- ・子供たちの学力向上につながっている。
- ・生涯学習相談が増加し、多様なニーズに応えられるようにしている。
- ・情報システム完成による市民への発信や普及展開のため操作講習会を開催している。
- ・地域福祉・ケア社会の体制づくりを行っている。

<団体活動の活性化に向けて、団体として取り組んでいること>

- ・勉強会、会議、研修会、見学会等を実施し、また市民のための講座展開の強化や人材バンクの活用に取り組んでいる。
- ・関連団体へ事業の開催協力を要請している。
- ・講座等の受託運営をしている。
- ・大学との連携をしている。
- ・時代の変化に対応した情報収集と活動への理解を得るための広報活動に取り組んでいる。
- ・生涯学習情報コーナー体制の確立とサービスの向上に取り組んでいる。
- ・会員同士のコミュニケーションの場づくりに取り組んでいる。
- ・会員を増やそう運動の継続と賛助会員獲得へのアプローチに取り組んでいる。

<団体間での交流・連携を深めるための提案>

- ・SNSなどのICTを活用した、連携のためのきっかけづくりを行う。
- ・近隣市合同会議の継続や、各団体の役員を交えた意見交換会など、発展的な情報交換・意見交換の機会を作る。
- ・市内外で活動する多くの団体が共通のテーマで連携を深められるよう、ジャンル単位の協議会を開催する。(教育、経済、環境、健康など)
- ・狭山市のNPO法人が事業報告を公表する際のネットワーク化、一元化、各NPO法人がリンクをはり情報交換をして活性化に結びつける。
- ・生涯学習フェスティバルを開催し、カテゴリー別交流を深める。
- ・東京オリンピック・パラリンピックを一つの目標に、様々な事業に連携して取り組む。

<市全体の生涯学習活動の活性化に向けて取り組んでいること/今後取り組めること>

- ・地域団体、企業等による地域共催事業での学びから、地域への愛着を育てている。
- ・お茶香るまち狭山に相応しい、日本の伝統文化の啓発に取り組む。
- ・幼稚園・小・中学校・自治会・老人会・福祉グループ等からの要請で、その地域に伝わる狭山の民話を語る。
- ・学びの成果を地域参画や社会貢献活動に活用している。
- ・仲間づくり、健康維持、医療の基礎知識習得など、目的別の活動に取り組んでいる。
- ・生涯学習の相談体制や生涯学習情報ネットワークの充実に取り組む。
- ・生涯学習フェスティバルの実施に取り組む。
- ・魅力ある自主事業、共催事業の実施に取り組む。

<生涯学習施策の中で、最も問題が大きい、あるいは改善の必要性が大きいと思われる施策>

【生涯学習関連施設のサービスの充実】

- ・様々な理由で生涯学習関連施設に出かけて学ぶことが困難な人へ、インターネットを活用した在宅で学習できる機会を提供すべきである。

【現代的課題等への取り組みへの強化】

- ・高齢化への対応として、さやま市民大学にて人材育成・地域コーディネーターを養成して活動団体の拠点をつくる。

【学校教育との連携の推進】

- ・さやま市民大学や学校教育現場との連携など、生涯学習の成果を活かすための具体案を明確にすべきである。

【生涯学習ボランティア活動の充実】

- ・若い世代へのアプローチがもっと必要である。生涯学習やボランティア活動が若い世代にとって、やって良かった、得るものがあつたと感じられるようにする必要がある。
- ・既成のものではなく、若者が一からつくれるような取り組みを入れてはどうか。

【芸術・伝統文化活動の促進】

- ・伝統文化の促進は本腰で取り組むべきである。

<施策として提案したいもの>

- ・インターネット・Web等、時代の変化をとらえた様々なツールや動きを取り入れるとともに、情報化社会についていけない世代を支援してほしい。また、かっこよさだけではない、伝わりやすさといった意味でのデザインを考えるべきである。
- ・さやまマルシェの将来の方向性を示してほしい。
- ・文化の分野における横断的クラブチームを作るべきである。
- ・国際的に活躍できる人材の育成に向けて、日本の伝統文化・慣習を学ぶ講座を開設する。
- ・狭山市学校支援ボランティアセンター（SSVC）と学校応援団の融合した取り組みを計画に図解入りで明確に示すべきである。
- ・「協働」と生涯学習領域（生きがい、文化、教養など）との融合が必要である。
- ・地域福祉・地域ケア社会の仕組み・体制をつくる。
- ・塾へ通えない子供への補習事業を充実する。
- ・さやま市民大学の修了生や教員経験者などによる活動を充実する。
- ・まちの活性化のために観光案内人ガイドを発足させる。
- ・地域に合った生涯学習（地域学・家庭学・故郷学）を支援する。
- ・高齢者の支援といった今後強まるニーズへ対応する。
- ・潜在的なボランティアを発掘・把握できる管理・登録制度を市で展開して欲しい。
- ・優れた人材は市で把握して市無形文化財に登録するなど、市民に発信すべきである。

第4節 第4次生涯学習基本計画の進捗状況

1 目標指標に対する進捗状況

第4次生涯学習基本計画では以下の3つのテーマに沿って、16の指標を取り組み目標に設定し、その進捗状況を毎年把握してきました。

平成27年度末現在、16の指標中8つの指標が目標値に到達しています。

1. 学びの情報を豊かにするために 取り組み目標

指標	内容	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
		平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 27年度
生涯学習・社会教育情報へのアクセス件数	市民交流促進総合ポータルサイト内の生涯学習・社会教育情報へのアクセス件数	3,536 件/月	8,160 件/月	12,225 件/月	15,424 件/月	16,455 件/月	10,000 件/月
生涯学習に関する相談件数	生涯学習情報コーナーにおいて生涯学習に関する相談を受けた件数	—	106 件/月	155 件/月	194 件/月	175 件/月	300 件/月
「さやま学びの仲間たち」への掲載団体数	生涯学習団体に関する情報冊子「さやま学びの仲間たち」への掲載団体数	1,495 団体	1,456 団体	1,472 団体	1,467 団体	1,423 団体	1,600 団体

2. 豊かな学びを享受するために 取り組み目標

指標	内容	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
		平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 27年度
公民館の貸出件数	公民館の学習室などの貸出件数	31,857 件/年	53,114 件/年	48,155 件/年	56,210 件/年	52,419 件/年	33,000 件/年
市民文化祭への参加団体数	市民文化祭に参加した団体数	650 団体/年	655 団体/年	655 団体/年	657 団体/年	636 団体/年	670 団体/年
現代的課題や地域課題に関する事業の実施件数	公民館における現代的課題や地域課題に関する事業の実施件数	157 件/年	159 件/年	165 件/年	152 件/年	178 件/年	150 件/年
青少年教育に関する事業の実施件数	公民館における青少年対象の事業の実施件数	72 件/年	80 件/年	68 件/年	94 件/年	96 件/年	90 件/年
家庭教育に関する事業の実施件数	家庭教育学級・すこやか子育て講座などの事業の実施件数	71 件/年	72 件/年	81 件/年	80 件/年	69 件/年	70 件/年
人権教育に関する事業の実施件数	人権に関する研修会・講座などの事業の実施件数	55 件/年	50 件/年	61 件/年	68 件/年	65 件/年	60 件/年
地域子ども教室の開設数	地域子ども教室の開設数	11 教室	13 教室	14 教室	14 教室	15 教室	15 教室
地域子ども教室の開催回数	地域子ども教室の延べ開催回数	189 回/年	204 回/年	187 回/年	198 回/年	204 回/年	220 回/年
市民の生涯学習実施率	生涯学習活動をしたことがあると回答した市民の割合	—	—	—	※ 39.8%	—	50.0%

※ 第5次狭山市生涯学習基本計画策定にかかるアンケート調査(平成27年)

3. 学びの成果を豊かに活かすために
取り組み目標

指 標	内 容	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
		平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 27年度
生涯学習ボランティアによる学習会の指導件数	生涯学習ボランティア名簿への登録者による学習会の指導件数	350 件/年	355 件/年	332 件/年	351 件/年	360 /年	110 件/年
学校支援ボランティアの派遣人数	狭山市学校支援ボランティアセンターによる学校支援ボランティアの派遣実人数	261 人/年	300 人/年	337 人/年	337 人/年	313 人/年	290 人/年
学校応援団への参加者数	学校応援団への延べ参加者数	55,935 人/年	47,253 人/年	46,710 人/年	50,742 人/年	51,562 人/年	63,000 人/年
生涯学習の成果を活かしたいと思う人の割合	生涯学習の成果を活かしたいと思うと回答した市民の割合	—	—	—	※ 19.5%	—	25.0%

※ 第5次狭山市生涯学習基本計画策定にかかるアンケート調査(平成27年)

2 取り組み結果

第4次生涯学習基本計画の計画期間中の、生涯学習施策の取り組み状況について、3つのテーマに沿って整理すると次のとおりです。

(1) 学びの情報を豊かにするために

市民交流促進総合ポータルサイト「さやマルシェ」内に、生涯学習情報やサークル等の活動情報を、市民がいつでも検索できるシステムとして狭山市生涯学習情報検索システム「さやまなびいネット」を開設しており、このアクセス数は飛躍的に伸びています。また、その活用をさらに促進するために、平成26年度よりさやマルシェ操作講習会を開催しています。

本市や市民団体などが実施する講座や、生涯学習に取り組む団体やボランティアの活動などに関する市民からの相談については、活動拠点や社会教育課、公民館などで随時応じてきましたが、平成24年7月に狭山市駅西口市民交流センター内に設置した生涯学習情報コーナーでは、本市が運営を委託した「NPO法人さやま生涯学習をすすめる市民の会」によって、総合的に生涯学習の相談に応じています。しかし、この生涯学習情報コーナーにおける生涯学習に関する相談件数、市民の生涯学習の実施率、生涯学習団体に関する情報冊子「さやま学びの仲間たち」の掲載団体数及び市民文化祭への参加団体数は目標値に達していません。

今後は、生涯学習に関する積極的な情報提供、相談体制の充実が課題です。

(2) 豊かな学びを享受するために

家庭教育学級、すこやか子育て講座、人権講座等において、事業を充実させ、学びの機会づくりと場の提供を行いました。

本市では、公民館、富士見集会所、図書館、博物館が改修・整備され、市民の生涯学習活動の促進を図るとともに、NPO法人さやま生涯学習をすすめる市民の会等の市民団体等と連携し、生涯学習活動の機会や場の充実に向けて取り組んできました。

団体活動では、地域子ども教室の開設数は徐々に伸びたものの、市民文化祭への参加団体数には大幅な伸びは見られません。また、生涯学習活動に関するアンケート調査においても、生涯学習をしたことがあると回答した市民の割合には大きな変化はみられません。

今後は、市民の生涯学習への参加促進及び生涯学習団体の活性化が課題です。

(3) 学びの成果を豊かに活かすために

市民が生涯学習活動を支援する「生涯学習ボランティア制度」では、約150の指導メニューに対して約200人の市民講師が登録して、生涯学習の成果を地域社会に活かす取り組みを行っています。

また、学校支援では、さやま市民大学の同窓会が中心となって活動する「狭山市学校支援ボランティアセンター」や、保護者及び地域住民が学校活動への支援をボランティアで行う学校応援団など、生涯学習の成果をまちづくりや学校支援に活かす取り

組みを行っています。

学びの成果を活かすことについては、地域や学校におけるボランティア活動が活発になってきている反面、「生涯学習の成果を活かしたいと思う人の割合」は目標値に達していません。

今後は、学習の成果を地域社会に活かすことができる仕組みづくりが課題です。

第5節 本市の生涯学習をめぐる課題

生涯学習を取り巻く社会動向、本市の生涯学習施策の取り組み状況、アンケート調査及びヒアリング調査の結果、前計画の進捗状況の結果を踏まえ、本市の生涯学習をめぐる課題を、次のとおり整理します。

1 生涯学習に関する情報提供・相談について

生涯学習に関する情報については、様々な関連施設や媒体をとおして市民へ周知していますが、アンケート調査の結果からは、市民交流促進総合ポータルサイト「さやまルシェ」、「狭山市生涯学習情報コーナー」、生涯学習団体一覧「さやま学びの仲間たち」の利用が低く、本市の情報提供の仕組みが十分に活用されていないことがうかがえます。

第4次生涯学習基本計画の進捗状況では、生涯学習情報コーナーにおける相談件数は伸びているものの目標値を大きく下回るなど、生涯学習に関する相談体制の充実も課題となっています。

また、団体ヒアリングにおいては、広報活動の難しさや、効果的な情報提供の重要性、多様な人材情報の集積と発信の方法についての意見などが挙がっており、また活動の活性化に向けては、学習に関する相談体制や情報ネットワークの充実に取り組むことが挙げられています。

今後も、様々な機会をとらえ、市民一人ひとりが自分に合った方法や場を選ぶことができるように、情報提供や相談体制のさらなる充実を図るとともに、団体活動の活性化に向けて、活動のネットワークを構築し、団体間の交流を促進する必要があります。

2 生涯学習の機会や場の提供について

生涯学習基本計画策定にかかるアンケート調査の結果では、生涯学習をしたことがあると回答した市民の割合は約40%と、前回行った調査結果と比べて大きな変化はみられません。生涯学習をしない理由についても「仕事が忙しくて時間がとれない」の割合が依然として高くなっています。

また、狭山市の行政に特に力を入れてほしいこととして「高齢者や障害者が参加しやすいように配慮する」、「市民の関心の高い講座等を増やす」「講座等の種類や数を増やす」などが上位に挙がっています。

第4次生涯学習基本計画の取り組み結果では、市民の生涯学習への参加促進と、生涯学習活動団体の活性化が課題となっています。

団体ヒアリングにおいても、様々な理由で、生涯学習関連施設で学ぶことが困難な人への学習機会の提供を求める意見や、高齢者の支援といった今後強まるニーズへの対応を求める意見が挙がっています。

今後も、施設運営や講座実施などの面で、だれもが生涯にわたって学習できる環境を整えるとともに、多様なニーズに応じた学習メニューの充実を図る必要があります。

また、市民と行政が連携して、生涯学習の機会や場のより一層の充実を図っていく必要があります。

そして、行政が取り組む生涯学習活動としては、公民館などにおける社会教育活動などのより一層の充実を図っていく必要があります。

3 学習の成果の活用について

狭山市生涯学習基本計画策定のためのアンケート調査の結果では、生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を、自分以外のために活かしたことがない割合は69.3%でしたが、今後、自分以外のために活かしたいと思うかについて「活かしたいと思う」と「どちらかといえば活かしたいと思う」と答えた割合が、合わせて約50%となっており、生涯学習の成果を活かそうとする意識は高くなっています。特に10歳代～30歳代で「活かしたい」とする割合が高くなっています。

生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を自分以外のために活かすのに必要なこととして、「学んだ成果を発揮できる場をつくる」、「学んだ成果を発揮できる機会や場について情報提供する」、「学んだ成果を地域に還元できる仕組みづくり」が上位に挙がっています。

また、第4次生涯学習基本計画の評価では、生涯学習ボランティア制度や狭山市学校支援ボランティアセンター、学校応援団など、生涯学習の成果をまちづくりや学校支援に活かす取り組みが進められてきましたが、「生涯学習の成果を活かしたいと思う人の割合」は目標値に達していません。

団体ヒアリングにおいても、現在様々な形で学習成果が活用される中、将来に向けて、より積極的に地域の豊かな人材が学習支援や学習指導に参加できる仕組みづくりが提案されています。

今後も、学習の成果を地域社会に還元することができる社会の実現に向けて、学習の成果を地域社会に活かす場や活かすことができる仕組みづくりの、より一層の充実を図っていく必要があります。